

ぎのわん地域づくり塾 ニュースレター

Vol. 6

主催：宜野湾市 / 宜野湾市社会福祉協議会 運営：まちなか研究所わくわく
共催：沖縄国際大学 後援：沖縄県地域振興協会

H29. 9. 9 ～ぎのわん地域づくり塾の様子をお伝えします～ 発行：宜野湾市市民協働推進課

地域の現場に触れ課題を考える

第5回 <9月9日(土)9:00-15:30> 21名参加
フィールドワーク (宇地泊区より17名参加)
～まちあるき・地域インタビュー実践～
まちなか研究所わくわく 宮道 喜一氏



第5回講座は、フィールドワークとして、地域で実際に活動している方々へのインタビューと、まちあるきをしました。インタビューでは地域の方が17名も参加して下さり、地域への熱い思いを感じることができました。午後はグループごとにまちあるきを行い、実際に現場を見て、各グループの地域課題を考える時間となりました。

～インタビューで分ったこと～

- 婦人会が仲間作りの場になっている。専門性のある人が多い。
- 青年会 OB 飲み会での繋がりがきっかけで31年ぶりにエイサーを復活させた。
- 毎月開かれている子育てサロンは、12、3組の

利用があり、広報も行っているが、本当に必要な世帯が来ていないかもしれない。

○子どもの居場所づくりでは、親同士の交流も見られ、活動を広げていきたい。

～まちあるきで分ったこと～

- アパートや一戸建ての家、新しい保育園があり、単身者や若い方の利用が多いのでは。
- スーパーや情報センターは情報発信できる場になりえる。
- (子育て支援センターからの聞き取りから) イベントを通して親同士の友達作りや保育士へ相談をできる場所がある。
- 子どもの遊び場がない。
- まちやぐわーが子ども達の居場所となっている。
- (地域の方への聞き取りから) つながりがある人は困った時に自治会長や同じ団体の人と情報交換をしている。介護や身体の不調などで外に出る機会が減ることがある。



塾生の声 ～レポートより～

～気づき・学び～

- 地域の中で活動している人々の間でも、お互いの情報が知られていないと感じた。
- 各団体の活動がかなり活発でいろんなイベントがあることが分った。
- 活動をしていることを一部の方にしか伝わっていないのではと感じた。
- グループで話し合ってきた課題の仮説と、実際地域活動に参加している方々の声を聞いて、事実が違っていたことに気付かされた。
- 富名腰会長への信頼の厚さも感じられた。

～自分に生かしたいこと～

- ポジティブな情報を使って解決策を考えたい。
- 想像だけで物事を捉えるのではなく、実際に話を聞いて確認することが大事。
- 関わりたい人と関わってほしい人をつなげる。
- 地道に活動することで、必要な時に人が集まる。
- いかに地域の既存の活動を知り、つなぐことができるか。

今回の講座は…地域課題解決の企画づくり

～ゼミ・中間発表～

まちなか研究所わくわく 宮道 喜一氏

10月7日(土)9:00～ @沖縄国際大学